

月刊 やちまなこ

2025.10.15 発行

No.335

10 月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



ハナイグチ（ヌメリイグチ科 地方名：ラクヨウ、ジコボウなど）

カラマツは明治 13(1880) 年頃に長野県から移入され、その後道内で大規模な造林が行われてきた。炭鉱の坑木として、炭鉱会社が力を入れて植林してきた歴史の一面もある。三笠市には唐松炭鉱というのもあった。

ハナイグチはカラマツの根に外性菌根を作り、相互に栄養を交換し合って共生する。ハナイグチもカラマツ移植の際に北海道に持ち込まれ、優れた食茸として定着した。

映画『もののけ姫』に登場する「ジコ坊」というキャラクターはハナイグチの故郷長野県での呼び名に由来するという。



塘路フィールドノート【9/15～10/14】

【野鳥】

渡り鳥の飛来が本格化しています。これから水鳥たちがさらに増え、晩秋には猛禽類も加わり渡り鳥たちの最盛期を迎えます。近年ダイサギが多い印象でしたが、それに加えカワウの集団も目立って増えてきました。



ダイサギ (シラルトロ湖)

昨季は厳冬期も見かけられたが今シーズンはどうか。湖面に白が映える。サギ科



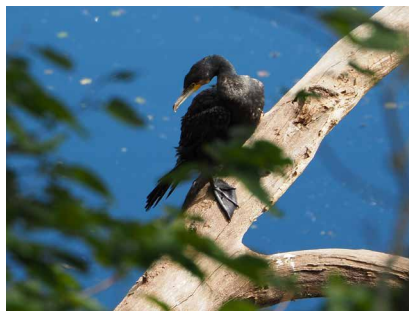
ヨシガモ (シラルトロ湖)

この時期は地味な色合い。他のカモ類と同じ場所で食事する姿が見られる。カモ科



ヒシクイ (シラルトロ湖)

第一陣は9月中頃に飛来。日ごとに群れが入れ代わり立ち代わりで賑わう。カモ科



カワウ (シラルトロ湖)

水中に潜って魚捕りがうまく、琵琶湖などの地域では漁業被害で嫌われ者。ウ科



コサメビタキ (塘路湖畔)

夏鳥。ヒマラヤ地方まで分布する。餌の捕り方から英語では flycatcher。ヒタキ科



オシドリ (シラルトロ湖)

例年より見かける頻度が多い。西岸の木の枝で休憩している姿も見かける。カモ科

【植物・菌類】

今夏は記録的な猛暑がニュースになりましたが、釧路湿原周辺ではここへきて急激に涼しい空気となっています。植物にとって気温変化の振れが大きいと紅葉する前に落ち葉となるケースも見られます。



ツリバナ (吊花)

実の鮮やかな赤が特徴だが嘔吐や下痢、心臓発作を引き起こす毒がある。ニシキギ科



カンボク (肝木)

不味くて「鳥食まず」とも。長野県では「嫁殺し」の異名もある。スイカズラ科



コウライテンナンショウ (高麗天南星)

鮮やかな赤色の実を付ける毒草。晩秋の根を毒抜きして食べた歴史も。サトイモ科



サルナシ (猿梨)

雌雄異株 (または雑居) のつる性植物。今年は豊作とまではいえない。マタタビ科



ニガクリタケ (苦栗茸)

食後3時間程度で強い腹痛、激しい嘔吐、下痢、悪寒の症状が出る。モエギタケ科



モエギタケ (萌黄茸)

国内では珍しい緑青色のキノコ。凶鑑によっては可食であるとも有毒とも。モエギタケ科



ヌメリスギタケモドキ (滑杉茸擬)

傘の直径15cmほどで目立つ。ヤナギなどの広葉樹の枯れ木に多い。モエギタケ科



ムキタケ (剥茸)

シナノキやミズナラ、カエデ類などの広葉樹の倒木に重なり合う。キシメジ科



カンバタケ (樺茸)

カバノキ科に生えてくる。パンケーキのような感触だが食不適。サルノコシカケ科

【哺乳類・昆虫】

気温の高い今年の秋は昆虫の出現期間も長く、行動も活発。エゾリスは来たる冬に備えて頻繁に動き回っています。



エゾリス (塘路湖畔)

オニグルミをくわえて走り回る姿が頻繁に見られる。耳毛はまだまだ短い。リス科



ハネナガキリギリス (茅沼)

日本では北海道に分布。本州以南のものと比べると、翅が腹部より長い。キリギリス科



オオセンチコガネ (茅沼)

哺乳類の糞処理に一役買っている。今年は10月に入っても元気。センチコガネ科

野生生物の「擬態」を見て歩こう 開催しました

9月27日(土)に野生生物の「擬態」をテーマとした観察会を開催しました。標茶町博物館学芸員・元永康誠さんを講師に迎え、前半は、沢山いるはずの哺乳動物が何故なかなか姿を見ないのか、釧路湿原と山間部で棲息する動物にどのような違いがあるのか、またロードキルが多い地域と少ない地域にどのような特徴があるのかなどをレクチャー。後半は湖畔歩道～フィトンチッドの森で、予め隠しておいた動物の毛皮やぬいぐるみ、昆虫の擬態標本を参加者全員で探してもらいました。夏毛と冬毛で毛の質や色、触り心地に至るまで、どのような特徴があるのか、毛の模様がどのようにカムフラージュされているのかなどの解説を受けました。昆虫の擬態標本は正解者が出ないくらい環境に溶け込んでおり、参加者は写真を撮ったり分からないことを質問をして観察を楽しみました。参加者9名



11月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

ムックリを作ってみよう

[日 時] 11月15日(土) 13時～15時

[定 員・参加料] 15名 550円(材料費)

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター ◎問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

クリスマスリースを作ろう

[日 時] 11月29日(土) 13時～15時

[定 員・参加料] 15名 500円(材料費)

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター ◎問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

初冬の植物を見に行こう

[日 時] 11月9日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター
(0154-65-2323) まで

クリスマスリースを作ろう

[日 時] 11月23日(日) 13時～15時

[定 員・参加料] 15名 500円(材料費)

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

【開館時間変更のお知らせ】

11月1日(土)よりセンターの開館時間が下記のとおり変更となります。

○10:00～17:00 → **10:00～16:00** (令和8年3月31日まで)

◆日出・日入時間 9/30(5:17,17:06).10/15(5:35,16:39).10/31(5:55,16:15)

～指導員の独り言～

■美味い不味いはともかくはともかく、人類はキノコを食してきた歴史がある。キノコの世界は実に奥が深い。奥が深すぎて入り口で躊躇している自分がいる。①毒が無く旨い②毒はないが不味い③毒があり不味い④毒があり旨い—さて自分が興味がそそられるのは間違いなく④だ。毒キノコも地域によっては食用の歴史があるという。オオワライタケは東北やフランスでは毒抜きして食べられてきたという。ベニテングタケも塩漬けにすると毒が抜けてしかも美味だというではないか。よーしやってやるぞ、自分で人体実験だ。旨いもの食らうぞ。。。やっぱやめとかうか。(M)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

インスタグラム [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc) 

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00 まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料